

岩美町文化財調査発掘報告書第26集

鳥取県岩美郡岩美町

岩美町内遺跡発掘調査報告書Ⅶ

2004.3

岩美町教育委員会

序 文

本町は、鳥取県の最東端に在り、兵庫県との県境に位置する人口約14,000人の町です。風光明媚な山陰海岸国立公園を擁し、国の天然記念物に指定された浦富海岸、カキツバタ群落とともに、原始・古代遺跡も多く、歴史豊かな風土と自然に恵まれた環境にあります。

このようなすばらしい風景や環境を保存し、歴史・自然体験の場として活用していくことが、次代を担う青少年の育成にとっても重要なことでもあります。

本年は本町が昭和の大合併により誕生してから節目の50年を迎えました。

全国では市町村の合併問題について様々な動きがありましたが、本町では、合併することなく自立して歩いていくことに決定いたしました。今後は、これまで以上に町民が力を合わせ、郷土に生きる自信と誇りを培わなければなりません。そのためにも、郷土の文化を保存、振興、発展させ、地域が元気になるような文化行政を推進していくことが肝要と考えます。

今回の発掘調査は、岩美町内の2箇所において実施いたしました。いづれも開発事業に伴い、埋蔵文化財の保護を図るための試掘調査であり、岩美町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めて参りました。

試掘調査が完了し、ここに簡単なが一書をもって結果をご報告申し上げます。みなさまのご高覧に供し、ご批判・ご鞭撻を賜りたいと存じます。

最後に、現場で調査に携っていただいた皆様、ご協力、ご指導いただいた多くの方々や関係機関に心より深く感謝申し上げます。

平成16年3月

岩美町教育委員会
教 育 長 大 黒 啓 之

例 言

1. 本書は、平成14・15年度に岩美町教育委員会が、国庫及び県補助金を得て実施した岩美町内遺跡発掘調査（浦富地区・岩本地区）の報告書Ⅶである。
2. 本遺跡の発掘調査は、鳥取県岩美郡岩美町大字浦富字内池田、上荒木、下荒木、泓田、日ヶ崎及び大字岩本字妙連、丸山、中繩手においてトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 地形図（第1図）は国土交通省国土地理院発行の50,000分の1の地形図の一部を利用した。
4. 本書で使用した方位は、第1図、第2図及び第6図は真北、その他の図では磁北で、レベルは海拔標高である。
5. 出土遺物の整理及び本書の執筆・編集は中島伸二が行った。
6. 記録写真、実測図等は岩美町教育委員会が保管している。
7. 調査にあたり、下記の機関及び諸氏にご指導及びご協力をいただいた。ここに記して謝意を表す。

鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県鳥取地方県土整備局、株式会社 田中組、土地所有者の方々

8. 調査組織は以下のとおりである。

発掘調査主体 岩美町教育委員会

教育長 大黒 啓之

調査員 中島 伸二（岩美町教育委員会事務局職員）

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

事務局 岩美町教育委員会事務局生涯学習課

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要	
1. 浦富地区試掘調査	4
2. 岩本地区試掘調査	8
第4章 まとめ	15

挿図目次

第1図 岩美町遺跡分布図	3
第2図 浦富地区試掘調査地位置図	5
第3図 浦富地区試掘トレンチ配置図	6
第4図 浦富4号横穴墓平面・断面図	7
第5図 浦富5号横穴墓平面・正面・断面図	7
第6図 岩本地区試掘調査地位置図	10
第7図 岩本地区試掘トレンチ配置図	11
第8図 岩本地区トレンチ平面・断面図	13
第9図 岩本地区トレンチ平面・断面図	14
第10図 浦富地区・岩本地区出土遺物実測図	14

図版目次

図版1 浦富地区調査地全景、岩本地区調査地全景	
図版2 浦富4号横穴墓検出状況、浦富5号横穴墓検出状況	
図版3 岩本地区第9トレンチ柱穴検出状況、岩本地区第11トレンチ柱穴検出状況 岩本地区第12トレンチ遺構検出状況、岩本地区遺構検出状況	
図版4 岩本地区遺構検出状況、岩本地区第8トレンチ遺物出土状況 浦富地区発掘作業状況、岩本地区発掘作業状況	
図版5 浦富・岩本地区出土遺物	

第1章 発掘調査の経緯

今回の調査は、本町の浦富地区及び岩本地区の2地域において、それぞれ開発事業に伴い実施した。

浦富地区においては、株式会社田中組の浦富真砂土採取事業計画に伴い、平成12年度に岩美町内遺跡（浦富地区）として埋蔵文化財所在の有無を確認するための発掘調査を実施しているが、その後、平成14年4月、平成12年度に発掘調査した隣接地を事業計画内に含めたいとの協議があった。この区域内には、浦富横穴墓群が確認されているため遺構の所在が充分考えられるため試掘調査を実施することとなった。

また、岩本地区においては、一般県道岩美インター線地方特定道路整備工事（道路改良）計画に伴って、平成12年7月、鳥取県鳥取地方県土整備局（当時：鳥取県鳥取土木事務所）より埋蔵文化財の有無について照会があった。本町教育委員会は鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもと、現地の踏査を実施した。その結果、計画路線内の北側（国道178号線沿い）に位置する小高い山の頂上付近に中世墓らしき五輪塔を確認した。この踏査結果と周知の埋蔵文化財が近隣に点在していることを踏まえて、鳥取県教育委員会、鳥取県鳥取地方県土整備局、本町教育委員会で再度、埋蔵文化財保護と工事との調整を図るべき協議を行った。協議により、県が用地取得を実施した後、遺跡の範囲確認、性格の把握を目的とした試掘調査を実施することとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

岩美町は、鳥取県の最も東寄りに位置する。北は日本海に面し、三方を山地に囲まれる。南側は国府町、西側は福部村に隣接する。東側は、兵庫県美方郡浜坂町および温泉町と県境を隔てて接する。町内には、標高1,000mの河合谷高原より発する蒲生川が北西に貫流し、その南西側には、同じ山より発した小田川が北流している。その流れは途中で合流し、日本海へ注ぐ。二つの河川の周辺には、肥沃な谷平野、沖積平野が形成されている。

岩美町の海岸線は、変化に富み、山陰海岸国立公園に指定されている。羽尾岬、陸上岬が海に突き出し、その間に美しい弧を描いた砂浜が形成されている。網代、田後港という良港にも恵まれ、漁業の町としても良く知られているところである。

岩美町の歴史の幕開けは、縄文時代より始まる。従来、鳥越の沢尻（50）で条痕地、無文地を呈した十数片の縄文土器が採取されたほか、岩井廃寺跡（47）より縄文晩期の深鉢が、そして山ノ神5号墳（55）の発掘調査時に、縄文前期の土器片や石鎌、石斧の出土が知られていた程度であった。

平成11・12年度に調査した新井三嶋谷遺跡（67）に於いて、縄文時代後期前半の土器片を伴っ

た長径1.43m、短径1.34m、深さ0.4mを測る掘り鉢状のやや歪な円形の土坑を検出しており、岩美町内では初めての遺構検出例となった。土器片の他、多数の安山岩系の石材・剥片、そして黒曜石の突帯文土器を検出している。このように確実に縄文時代の遺跡は増加している。

弥生時代に入ると、蒲生川下流域の沖積平野にいくつかの遺跡が見られる。集落跡として昭和40年代の河川改修の際、川底より弥生中期～後期の壺・甕・器台などの土器片の他、太型蛤刃石斧・石包丁・砥石等の石製品を出土した新井遺跡(70)が知られている。

また、新井遺跡に隣接した山腹に所在する上屋敷遺跡(69)からは、流水文銅鐸を出土している。この銅鐸は、近年調査が行われた鳥根県賀茂岩倉遺跡出土の31・32・34号銅鐸と、また以前より知られていた神戸市桜ヶ丘3号銅鐸とともに同じ鑄型で造られた兄弟銅鐸であることが判明し話題となっている。

上屋敷遺跡から南東2kmにある新井三嶋谷遺跡では、後期初頭に造営されたと考えられる貼石の墳丘墓(新井三嶋谷1号墳丘墓)を1基、また、時期を確定しがたいが、ほぼ同時代に造られたであろう方形の墳丘墓(新井三嶋谷2号墳丘墓)を1基確認している。新井三嶋谷1号墳丘墓は、この時期の墳墓の中では、全国的にも最大級のもので、南北約26.5m、東西約18m、高さ最大約3mを測る。墳丘には拳大から人頭大によりやや小振りの石を貼り付け、一部石列が認められた。この発見により、前述した新井遺跡や上屋敷遺跡との関連性が窺われる。

新井三嶋谷遺跡の西方に位置する丘陵尾根上に存在した新井32号墳下(68、消滅)からは、弥生時代中期と推定される木棺墓2基を検出している。これに隣接した新井51号墳(68、消滅)からは、弥生時代後期の壺・器台の口縁部を検出し、墳丘墓の存在が想定される。

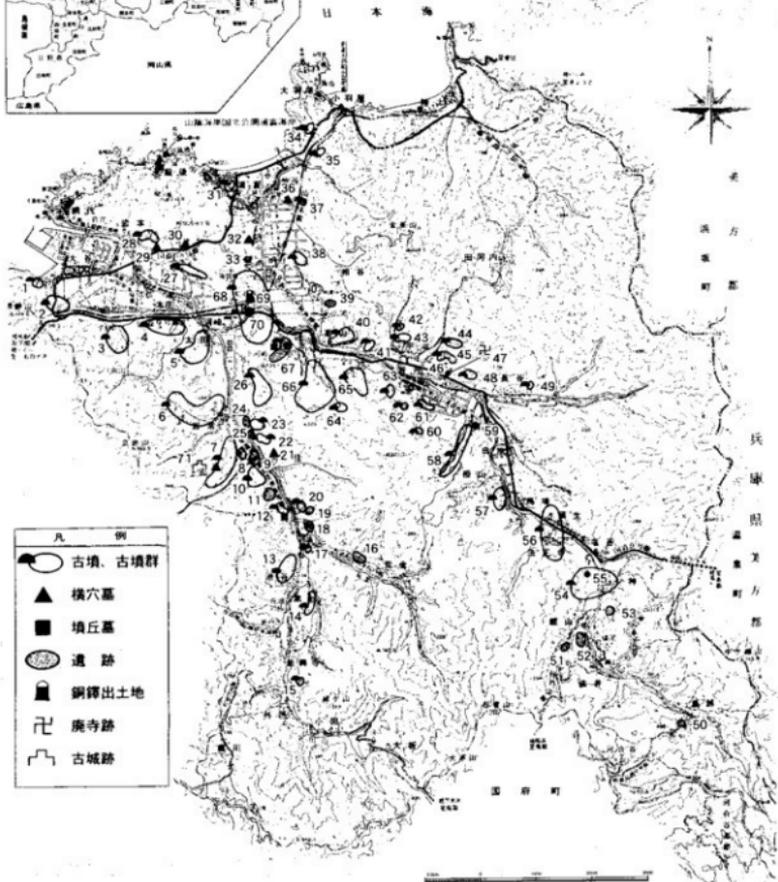
その他、小田川下流域の上太夫谷遺跡(8)からは、弥生時代後期と推測される堅穴住居跡・木棺墓が検出されている。

古墳時代になると、弥生時代に展開した沖積平野の生産基盤に加え、山間部の開拓も進み、町内各地に古墳の造営がみられる。現在、約450基の古墳と約20基の横穴墳が町内に確認されている。その中でも巨大な石室を主体として家型石棺を有する古墳が確認されている高野坂古墳群、小畑古墳群や砂丘地に造営された浦富古墳群などの特色あるものが多い。

古墳時代終末期より奈良時代に入っても依然として古墳の造営は続くが、その中には有力な氏族集団が建立したと思われる岩井廃寺がその存在を知られている。岩井廃寺は、白鳳時代後期の発起寺式の伽藍配置をとったものと考えられている。また、7世紀末には銅が産出されていた小田川上流の荒金集落付近に位置する広庭遺跡では、発掘調査により規格をもった掘立柱建物群が検出されている。南北朝に入ると、山名氏が因幡支配の戦略的拠点とするため二上山城を築き、戦国期まで機能を果たしていた。この時期には至る所に城砦跡が築かれている。

今回調査した浦富地区においては、調査箇所周辺に周知の埋蔵文化財である浦富横穴墓群(32)が所在している。また、岩本地内には浦富日ヶ崎古墳群(27) 岩本横穴墓群(29)、坊谷横穴墓群(30)が周辺に広がっている。

岩美町全図



凡 例	
	古墳、古墳群
	横穴墓
	墳丘墓
	遺跡
	銅器出土地
	廃寺跡
	古城跡

- | | | | | |
|------------|-------------|--------------|----------------|-------------|
| 1 弥生古墳 | 16 広庭遺跡 | 31 浦富古墳群 | 46 岩井庵下層遺跡 | 61 岩井庵下古墳群 |
| 2 小畑古墳群 | 17 院内古墳群 | 32 浦富横穴墓群 | 47 岩井庵寺跡 | 62 岩井庵谷古墳群 |
| 3 平谷古墳群 | 18 院内副遺跡 | 33 新井第1遺跡 | 48 岩井大野古墳群 | 63 岩井奥山古墳群 |
| 4 本古古墳群 | 19 長崎遺跡 | 34 堀井古墳群 | 49 長谷塚古墳群 | 64 志志奥の谷古墳群 |
| 5 太田古墳群 | 20 長郷路ノ谷古墳 | 35 牧谷横穴墓群 | 50 鳥嶺尻遺跡 | 65 坂上古墳群 |
| 6 満願寺古墳群 | 21 桂ヶ谷横穴墓 | 36 牧谷横穴墓群 | 51 銀山女郎谷遺跡 | 66 志志古墳群 |
| 7 高野坂古墳群 | 22 岩常城山古墳群 | 37 牧谷下竹垣古墳 | 52 銀山真教寺遺跡 | 67 新井三馬谷遺跡 |
| 8 上太夫谷遺跡 | 23 岩常第ノ谷古墳群 | 38 高山下彌山古墳群 | 53 洗井泰助谷遺跡 | 68 新井古墳群 |
| 9 上ミヅノ遺跡 | 24 宮の前遺跡 | 39 高山御遺跡 | 54 山ノ神遺跡群 | 69 上層敷遺跡 |
| 10 高住古墳群 | 25 福石遺跡 | 40 高山上ノ山古墳群 | 55 蓮生遺跡 | 70 新井遺跡 |
| 11 東倉谷遺跡 | 26 榎座古墳群 | 41 志志寺山古墳群 | 56 蓮生古墳群 | 71 二上山城跡 |
| 12 長郷古墳群 | 27 浦富日ヶ崎古墳群 | 42 宇治崎ヶ谷古墳群 | 57 馬場古墳群 | |
| 13 志谷古墳群 | 28 岩本古墳群 | 43 宇治宮下屋敷古墳群 | 58 真名古墳群 | |
| 14 池谷新山古墳群 | 29 岩本横穴墓群 | 44 宇治市浜崎古墳群 | 59 真名遺跡 | |
| 15 延興寺城山古墳 | 30 坊谷横穴墓群 | 45 岩井宮の谷古墳群 | 60 岩井太郎右エ門谷古墳群 | |

第1図 岩美町遺跡分布図

第3章 調査の概要

1. 浦富地区試掘調査

調査地点 岩美郡岩美町大字浦富字内池田

調査期間 平成14年6月19日～7月8日

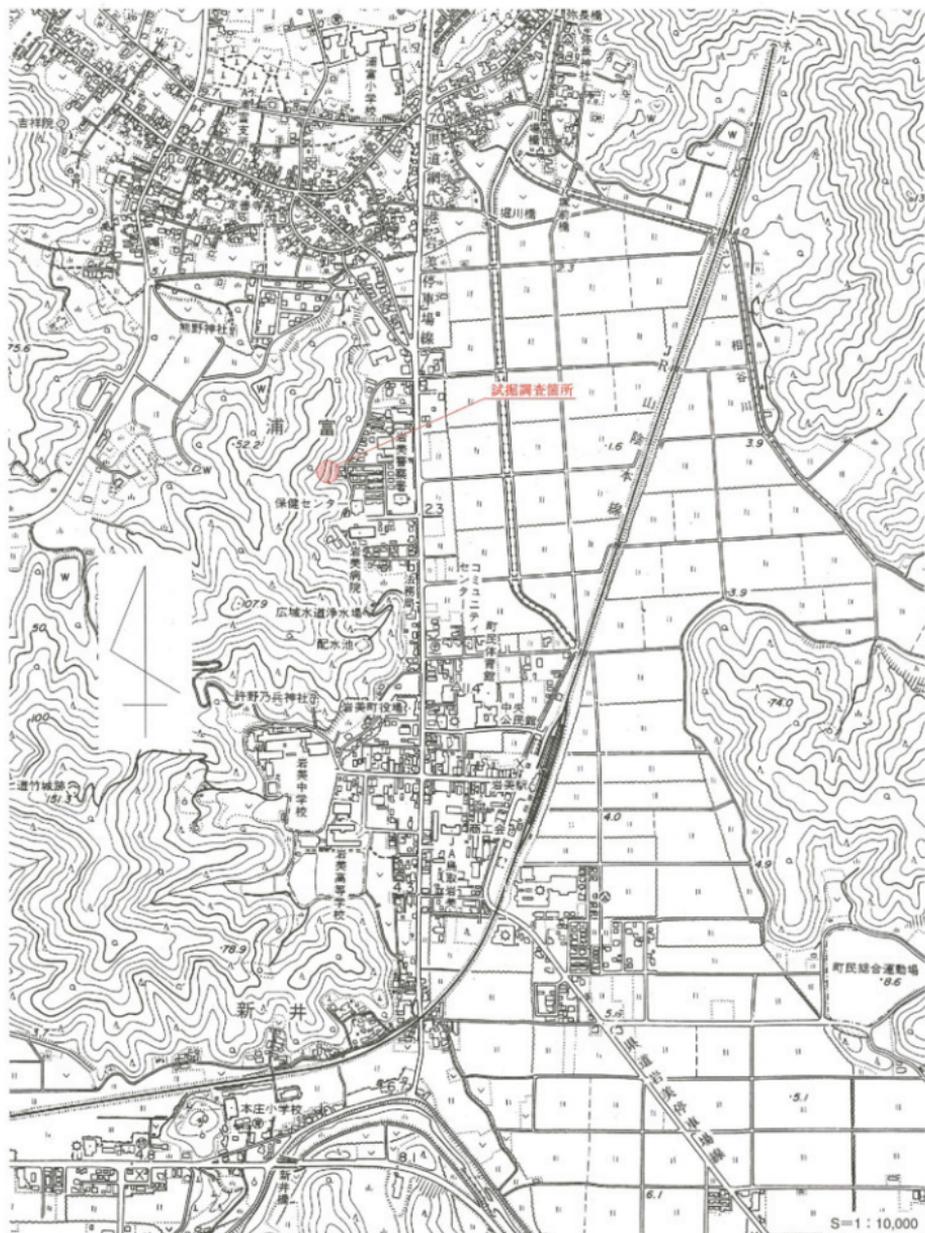
調査面積 21.7㎡

調査概要 今回試掘調査を実施した場所は、浦富真砂土採取事業に伴い、平成12年度に試掘調査した箇所の隣接地である。この場所は、周知の埋蔵文化財である浦富横穴墓群も確認されていることから遺構の分布が予測されるため、埋蔵文化財確認のための試掘調査を実施した。

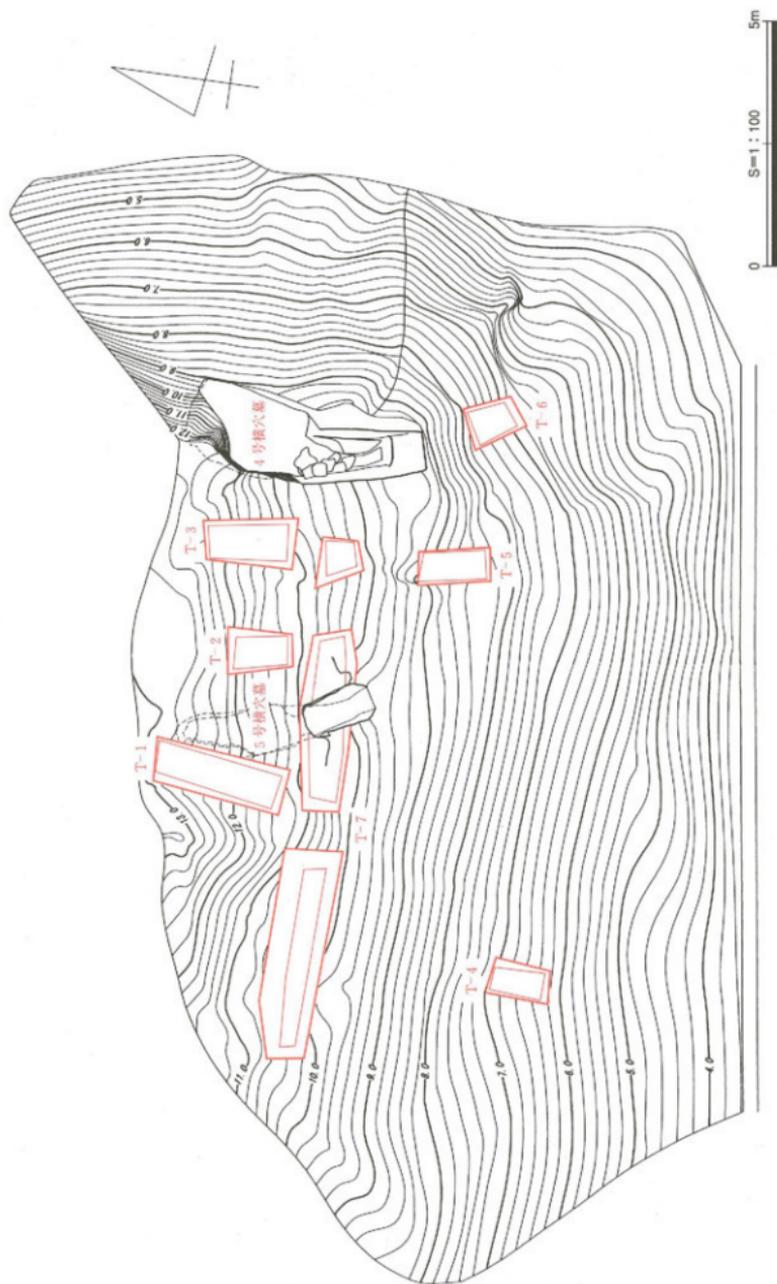
トレンチは第1トレンチから第7トレンチまで合計7本設定し、文化財の有無の確認を行った結果、第7トレンチから横穴墓を検出し、その横穴墓から土器枕に利用されていたであろうと考えられる土師器の破片（第10図Po5～Po7）が数点出土した。また発掘調査地の東端から半壊してはいたが、横穴墓が検出されたことにより、合計2基の横穴墓が確認された。

〈浦富地区トレンチ一覧表〉

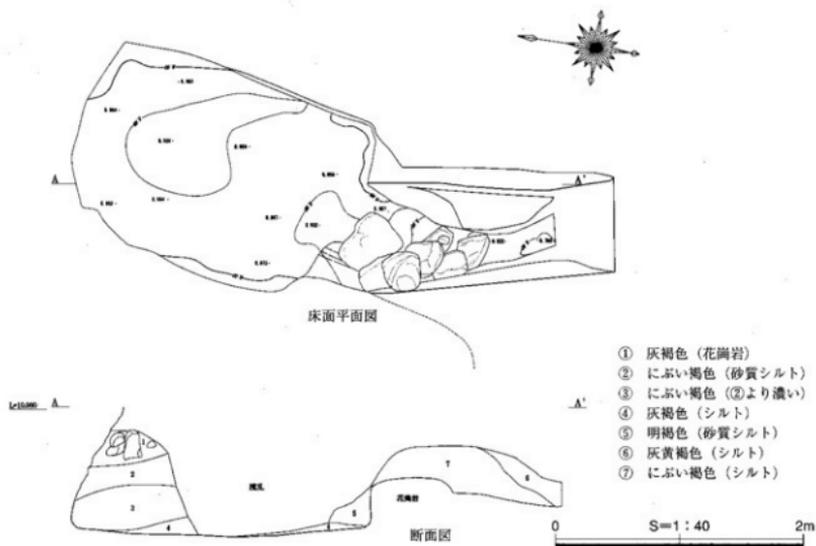
トレンチNo	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
T 1	1×3	3	なし	なし
T 2	1×2	2	〃	〃
T 3	1×2.5	2.5	〃	〃
T 4	0.8×1.5	1.2	〃	〃
T 5	1×1.5	1.5	〃	〃
T 6	0.5×1	0.5	〃	〃
T 7	1×11	11	横穴墓	土師器



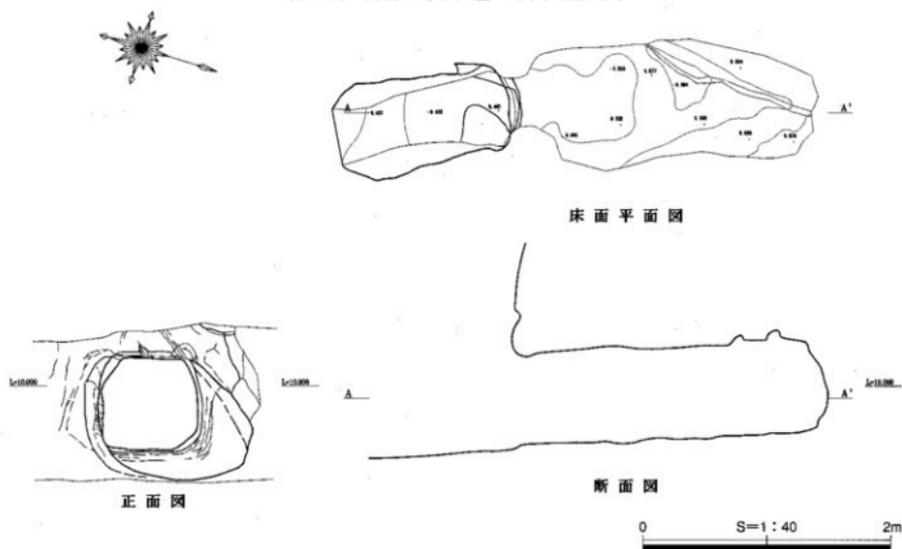
第2図 浦富地区試掘調査地位置図



第3図 浦富地区試掘トレンチ配置図



第4図 浦富4号横穴墓 平面・断面図



第5図 浦富5号横穴墓 平面・正面・断面図

2. 岩本地区試掘調査

調査地点 岩美郡岩美町大字岩本字妙連・丸山・中縄手

〃 大字浦富字上荒木・下荒木・泓田・日ヶ崎

調査期間 平成14年10月25日～11月29日

平成15年11月25日～1月19日

調査面積 40㎡

調査概要 県道の岩美インター線整備工事計画に伴い現地を踏査した結果、計画路線内に中世墓および埋蔵文化財の所在が予測される地形が認められたため、工事区域内の全体に文化財の分布が予測されると判断し、試掘調査を実施した。

平成14年度は県の用地取得が遅れたため、計画路線内の2分の1の範囲のみの調査となった。トレンチ1～4まで設定し調査を実施した。トレンチは2mの深さまで掘り下げを行ったが底面から芦や貝殻が出土したことから、以前の付近は沼あるいは湖であると推定された。どのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

平成15年度は昨年度に実施できなかった区域の発掘調査を行い、北側に五輪塔を確認している小高い山、それに隣接している水田、畑にそれぞれトレンチ5～13まで合計で9本のトレンチを設定した。トレンチ5、6、13は水田に設置したところ平成14年度と同様の結果となり、遺構及び遺物は確認されなかった。

踏査で確認された五輪塔の所在する小高い山は、頂上が平坦面となっており、何らかの遺構の存在が推定できるため、山の頂上にトレンチ9～12を設定し、調査を実施した。古墳の遺構は確認されなかったが、トレンチ9から柱穴が1箇所、トレンチ11からは1.5m間隔で柱穴が3箇所に確認された。また、傾斜面に設定したトレンチ12からは人為的に作られた石の列が確認された。五輪塔については、頂上から北側に延びる尾根状にこぶし大の河原石を積んだ集石となっている遺構が併せて3基確認された。

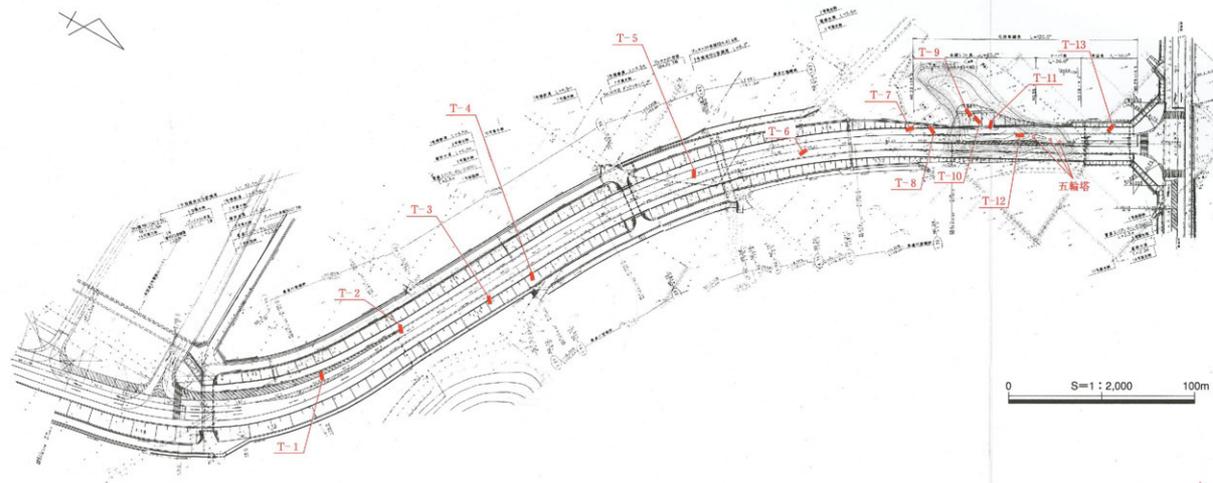
小高い山の南側山裾の畑地にトレンチ7～8を設定したが、いずれのトレンチも約1.2～1.3mの深さのところで灰色の砂層を確認した。この層からトレンチ7では土師器の高坏が出土し、トレンチ8からは土師器の瓶、高坏（第10図Po1～Po4）などが出土した。出土した遺物は古墳時代前期のものと考えられる。なお、遺物に伴う遺構はトレンチでは確認されなかった。

〈岩本地区トレンチ一覧表〉

トレンチNo	規 模 (m)	面 積 (m ²)	検 出 遺 構	出 土 遺 物
T 1	2×5	10	な し	な し
T 2	2×5	10	〃	〃
T 3	2×5	10	〃	〃
T 4	2×5	10	〃	〃
T 5	2×5	10	〃	〃
T 6	2×5	10	〃	〃
T 7	2×5	10	〃	土師器
T 8	1×3	3	〃	土師器
T 9	1×5 +0.5×1.5	5.75	柱 穴	な し
T10	1×5	5	な し	〃
T11	1×4.5 +1×2.5	7	柱 穴	〃
T12	0.5×5 +0.5×2	3.5	石垣状の石列	〃
T13	2×5	10	な し	〃

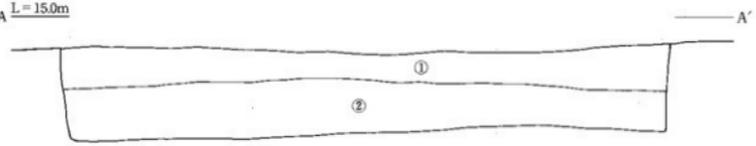


第6図 岩本地区試掘調査地位置図



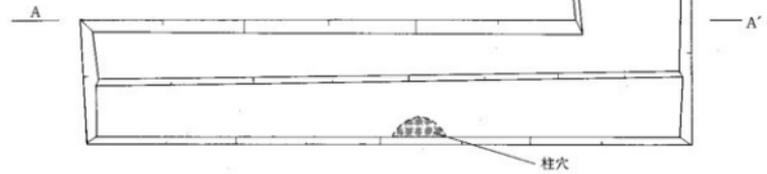
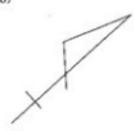
第7図 岩本地区試掘トレンチ配置図

A L=15.0m

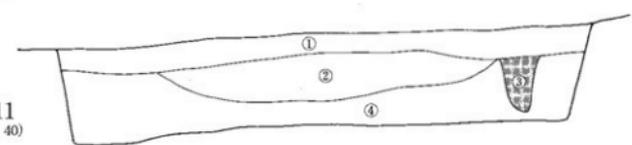


T-9
(S=1:40)

第9トレンチ土層断面
① 表土
② 地山

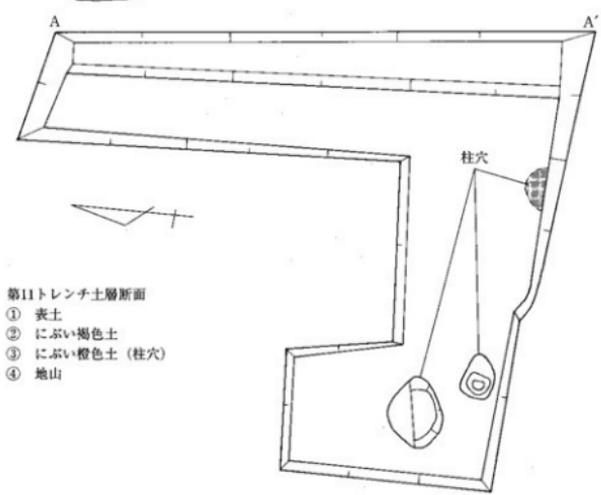


A L=15.0m

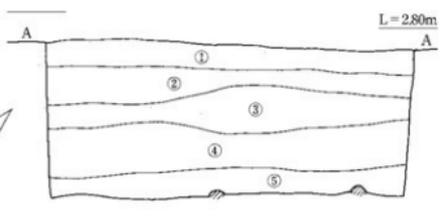
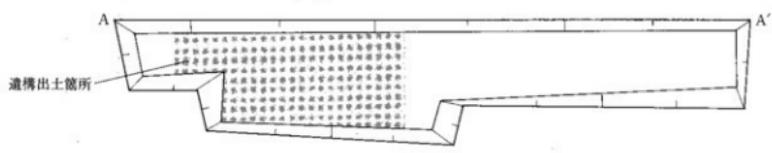
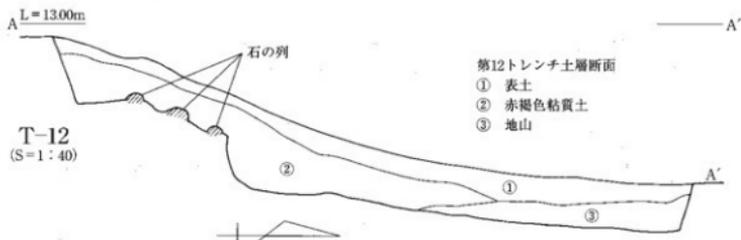


T-11
(S=1:40)

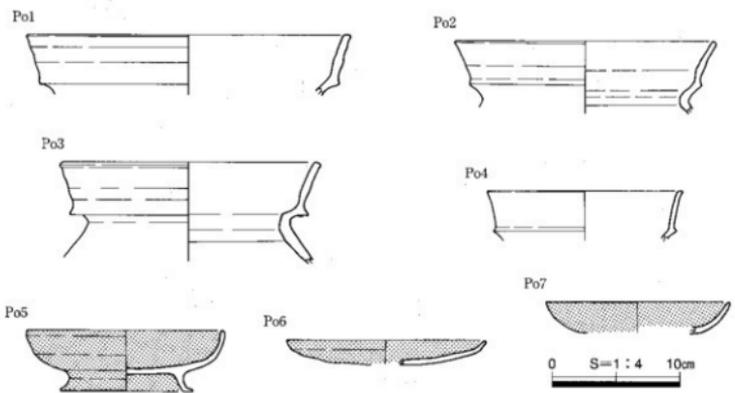
第11トレンチ土層断面
① 表土
② にぶい褐色土
③ にぶい橙色土 (柱穴)
④ 地山



第8図 岩本地区トレンチ平面・断面図 - 13 -



第9図 岩本地区トレンチ平面・断面図



第10図 浦富地区・岩本地区出土遺物実測図

第4章 まとめ

1. 浦富地区

調査を実施して2つの横穴墓が確認されたが、横穴墓の掘り込まれている斜面は花崗岩質である。山全体は真砂土及び花崗岩の採石場であり、部分的に砂層・シルト層・粘土質シルト層を挟みつつ、灰白色、灰褐色、にぶい褐色を呈する花崗岩が山の基盤層を形成している。2基の横穴墓はこの花崗岩をくり抜いて作られており、当時、相当の時間と労力が要されていたであろうと推測する。2基のうち半壊していた横穴墓は、以前に確認調査のために設置したトレンチの跡が残っていたため、浦富4号横穴墓であることが判明した。浦富4号横穴墓の玄室天井部は崩落して残っておらず、天井西側の花崗岩質の岩盤に亀裂があり、そこから表土並びに雨水が流れ込み玄室内が土砂で埋れていた。実際の規模は、かなり広く玄室内の横幅は1.7mの大きさである。

浦富4号横穴墓の西側に位置する横穴墓は、この発掘調査で出土し、浦富5号横穴墓と位置づけた。浦富5号横穴墓は、前述したとおり土師器の高台付坏が出土したが、土師器には赤色彩色が施されており、出土遺物から古墳時代後期の横穴墓と推測される。

2. 岩本地区

この試掘調査で3箇所の集石（五輪塔含む）と柱穴、人為的な石の列、土師器が確認された。

出土した土師器は古墳時代前期のもので柱穴などの遺構のある山の南側に位置する畑地から確認された。遺物に伴った遺構が検出されなかったことにより断定はできないが、遺物の出土した畑地は周囲の地形から当時の遺構が破壊されることなく残存している可能性もある。

また、その畑地の北側に位置する山の頂上には均等に並んだ柱穴、人為的に並べられた石の列が検出された。遺構にともなった遺物が確認されなかったことから年代および遺構の性格は判定できないが、この山は国道178号線沿いに位置し、この国道178号線は、昔の山陰道の道筋であったと推測される。また、この山の東側には道竹城、北側には桐山城がそびえ、町内を代表する中世の山城が位置している。このことから、中世の交通要所であったこの場所は、出城あるいはそれらに関する施設として機能していたと考えられる。3箇所の集石（五輪塔含む）について、遺物は検出されていないが、これらの遺構と関連するものであれば中世の遺構であることが予測される。

報 告 書 抄 録

ふりがな	いわみちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	岩美町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩美町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第26集							
編集者名	中島 伸二							
編集機関	岩美町教育委員会							
所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1							
発行年月日	西暦2004年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	番号					
うらたけのうらけつぼ 浦富横穴墓群	鳥取県岩美郡 岩美町大字 浦富字内池田	31302		35°34'34"	134°20'00"	2002.6.19 ～ 2002.7.8	21.7㎡	浦富真砂土採取 事業
いわもとまるのまいいせき 岩本丸山遺跡	鳥取県岩美郡 岩美町大字 岩本字丸山	31302		35°34'44"	134°21'00"	2002.10.25 ～ 2004.1.19	40㎡	一般県道岩美イ ンター線地方特 定道路整備工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
うらたけのうらけつぼ 浦富横穴墓群	横穴墓	古墳時代		横穴墓		土師器		
いわもとまるのまいいせき 岩本丸山遺跡	出土地	古墳時代 ～ 中世		五輪塔 柱穴		土師器		

浦富地区調査地全景
(東より)



岩本地区調査地全景
(平成14年度実施区域)

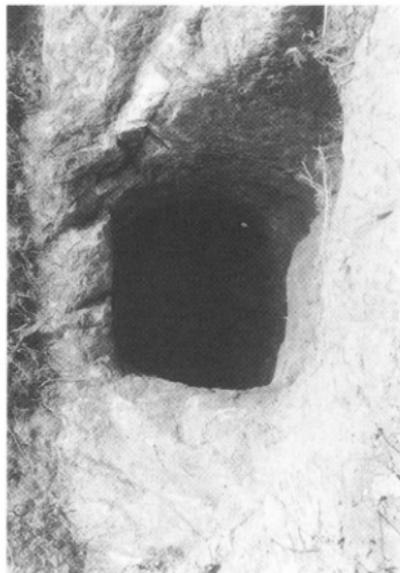


岩本地区調査地全景
(平成15年度実施区域)





浦富 4号横穴墓検出状況 (閉塞石)



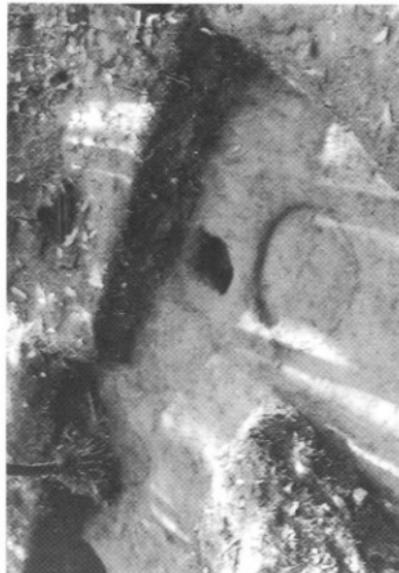
浦富 5号横穴墓検出状況 (土砂除去後)



浦富 4号横穴墓検出状況



浦富 5号横穴墓検出状況



岩本地区第11トレンチ柱穴検出状況



岩本地区遺構検出状況 (五輪塔)



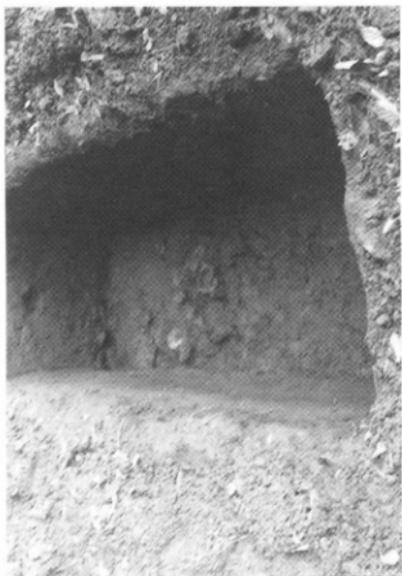
岩本地区第9トレンチ柱穴検出状況



岩本地区第12トレンチ遺構検出状況



岩本地区遺構検出状況 (集石)



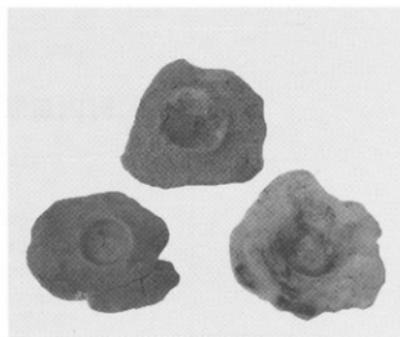
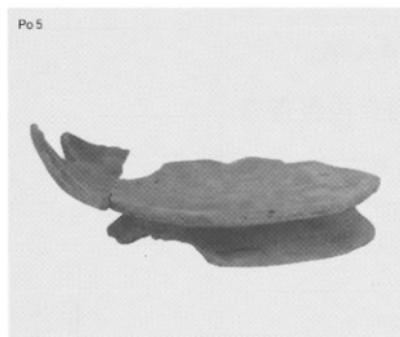
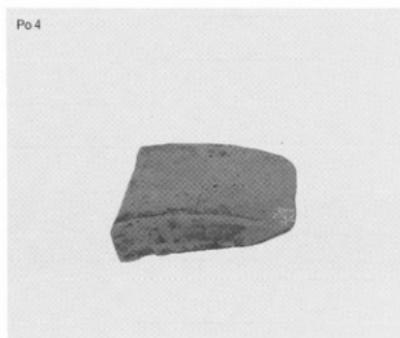
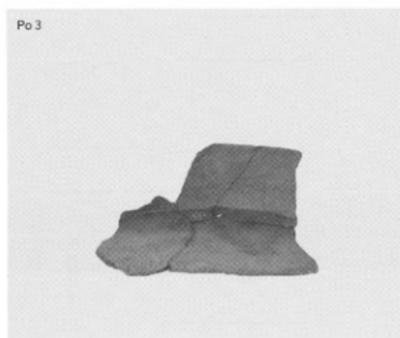
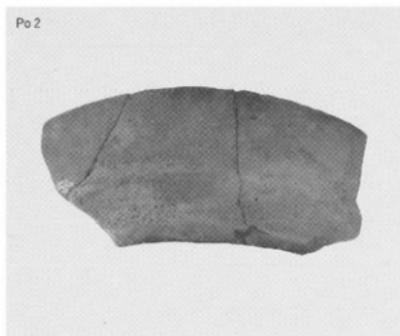
岩本地区第8トレンチ遺物出土状況



浦富地区発掘作業状況



岩本地区発掘作業状況



浦富・岩本地区出土遺物

岩美町文化財調査報告書 第26集

岩美町内遺跡発掘調査報告書Ⅶ

平成15年3月19日 発行

編集発行 岩美町教育委員会
鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地
TEL(0857)73-1302

印刷 勝美印刷株式会社
鳥取県羽合町長瀬稲島818-1
TEL(0858)35-4411